



UNMANNED

無人駅の芸術祭 / 大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2019

2019年3月8日(金) — 24日(日) / 17日間
大井川鉄道無人駅周辺(静岡県島田市・川根本町)

参加アーティスト = 中崎透 / 江頭誠 / さとうりさ / 木村健世 / してかずおともだち
ズガ・コーサクとクリ・エイト / 夏池篤+山本直 / +tic / 星雅治 / 持塚三樹
清水陽介 / 長谷部勇人 / クロダユキ+蔵内彩子 / 伊藤尚未 / 中村昌司 / 前川敏士

主催 = NPO法人クロスメディアしまだ 共催 = 静岡県文化プログラム推進委員会
協力 = 島田市、川根本町、大井川鉄道株式会社
助成 = 島田市文化プログラム支援事業、擔保ジャパン日本興亜「SOMPOアート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)

www.unmanned.jp



インフォメーションセンター

作品の情報や
パスポート販売は
インフォメーションセンターへ
→ 抜里駅より徒歩7分
めぐりプラザ内
島田市川根町抜里320

アートを道しるべに、豊かな人々の暮らす無人駅のワンダーランドをめぐるろう!

作品鑑賞パスポート

無人駅ラリー付き

屋内等のアート作品の鑑賞にはパスポートが必要です。

パスポート

価格: ¥1,000 (高校生以下無料)
販売場所: インフォメーションセンター、
新金谷駅、店舗等(公式サイト参照)

パスポート+フリーきっぷ

大井川本線(金谷—千頭間)の普通列車が乗降自由 / 2日間有効
価格: ¥4,000
販売場所: 新金谷駅

コンプリートでオリジナルグッズプレゼント!

パスポートの提示で参加できるイベントやワークショップ、
割引やコンプリート特典については、公式サイトを参照ください。

鑑賞チケットの販売収益は、アートの力よる地域の発見と交流を目指す当芸術祭の継続的な開催に向け活用させていただきます。



大井川鉄道の乗車や作品鑑賞をより楽しむための心得

その① 作品鑑賞は無人駅エリア。乗り降りする電車に注意して

無人駅で乗車できるのは普通(ワンマン)電車のみ。SLや急行列車の一部は無人駅に止まりません。

その② 電車の本数が少ないよ! 時刻表を見て効率的に回る工夫を

単線の鉄道のため、1時間に1本のペースでしか電車が来ません。ツアーへの参加や自家用車と電車を組み合わせた回り方など工夫を。

その③ トイレは目についたら必ず済ませるのがポイント

普通電車にはトイレがついていません。無人駅も全ての駅にトイレが設置されているわけではありません。トイレを見かけたらこまめに済ませましょう。

その④ 無人駅での運賃の支払い方法は?

無人駅から乗車する際は、乗車口で「ワンマン整理券」をお取りいただき、下車の際に車両一番前の運賃箱にてご清算ください。

その⑤ 車の場合、駐車場所に配慮しよう

お車で来場される場合、駐車場が完備されていない無人駅があります。
周辺住民の方のご迷惑にならない形でのご駐車にご協力ください。駐車場以外での長時間駐車はご遠慮ください。

その⑥ 挨拶が鑑賞&旅の基本です

地域住民の方や他の来場者とはぜひ挨拶を。気持ちの良い挨拶は旅を何倍も豊かなものにしてくれます。



交通案内
車利用: 東京IC→(新東名高速道路約2時間)→島田金谷IC→〈芸術祭開催エリアへ〉 名古屋IC→(新東名高速道路約2時間)→島田金谷IC→〈芸術祭開催エリアへ〉
電車利用: JR東京駅→(東海道新幹線約1時間)→JR静岡駅→(東海道線約30分)→JR金谷駅 JR名古屋駅→(東海道新幹線約1時間)→JR掛川駅→(東海道線約15分)→JR金谷駅 ※JR金谷駅で大井川鉄道へ乗換レンタカー等→〈芸術祭開催エリアへ〉

タクシーのご案内	レンタカーのご案内
大鉄タクシー (0547-45-2121) 金谷タクシー (0547-45-2151) 平和タクシー (0547-36-1000) 島田タクシー (0547-35-3535) 大井タクシー (0547-45-3131)	トヨタレンタカー島田駅前北口 (0120-010-085) ニココレンタカー島田金谷店 (0570-042-525) ニココレンタカー島田本店 (0547-37-6464)

facebook & Instagram UNMANNED Check!



お問い合わせ:
UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川事務局
(NPO法人クロスメディアしまだ)
静岡県島田市日之出町2-3
TEL: 0547-35-0018 Mail: semiar@cms.or.jp
最新情報は公式サイトから <http://unmanned.jp/>



静岡県文化プログラム、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、オリンピック事業で実施が定められた「文化プログラム」が、日本全国で開催されます。静岡県文化プログラム推進委員会は、文化・芸術振興や文化・芸術による地域・社会課題対応を目指して、様々な団体等との協働による取組を進めています。
https://shizuoka-ac.org/

無人駅の先のワンダーランドへの招待状を、あなたに。



雄大な大井川が流れる静岡県島田市・川根本町。
川に沿って地域をつなぐ大井川鉄道。
時代の流れの中、いつしか「無人駅」という空間が生まれました。

ひっそりとたたずみ、集落の日常を見つめ続ける無人駅。
その視線の先には、豊かに暮らす人々と美しい風景が今も残ります。

UNMANNED(アンマンド)は、無人の、という意味。
無人と呼ばれるこの場所で、
私たちが無くしかけてしまった、記憶や風景、営みを
アーティスト達が多彩に表現します。

無人駅が開くと地域が開く。
さあ、無人駅フィールドを舞台とした芸術祭を開催します。
あなたの目で、アートに彩られた新しい景色を発見してください。

中崎 透

1976年茨城県生まれ。美術家。現在、茨城県水戸市を拠点に活動。看板をモチーフとした作品をはじめ、パフォーマンス、映像、インスタレーションなど、形式を特定せず制作を展開している。展覧会多数。2006年末より「Nadegata Instant Party」を結成。2007年末より「遊戯室(中崎透+遠藤水城)」を設立。2011年よりプロジェクトFUKUSHIMAに参加し、主に美術部門を担当。

作品設置駅
福用駅徒歩5分の旧大池家
(島田市福用203-2)

作品タイトル
Tea Factory Ballade

会場となる茶工場について尋ねたインタビュの言葉と、建物に残された物を素材に、その場所や人についての小さな物語を編む。住居や家畜小屋も含むツアー型のインスタレーション作品を展開。



「番匠ななざま」(2014) photo: 小山田尚


江頭 誠

1986年三重県四日市市生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。戦後日本で独自に普及した花柄の毛布を主な作品素材として用い、大型の立体作品、空間性を活かしたインスタレーション作品を発表する。発砲スチロール製電車を毛布で装飾した「神宮寺宮型八棟造」が第18回岡本太郎現代芸術賞で特別賞を受賞。空間内に毛布で洋式トイレを造った「お花畑」はSICF17でグランプリを受賞。

作品設置駅
抜里駅及び徒歩7分の五班集会場
(ぬくりプラザすぐ)

作品タイトル
茶畑と機関車の間

旅行やおでかけするときは目的地にダイレクトに向かわず、目的地までの時間をかけて「寄り道」をする。間にあるもの、寄り道の中に発見、実はそれが一番の目的かもしれない。



「神宮寺宮型八棟造」(2015) Photo: 川崎市岡本太郎美術館

さとうりさ

東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。作品を用いたパフォーマンス「りさ・キャンペーン」を国内外で実施。独特のコミュニケーション手法で多数手がける。2008年より個人名義で活動。主なプロジェクトに「ある視点」(2001年 代官山インスタレーショングランプリ作品)、「ある視点: 十日町編」(2003年 越後妻有アートトリエンナーレ)、「国立文庫」(2013年-2015年 東京都国立市広域)

作品設置駅
田野口駅

作品タイトル
収集(地蔵まえ2)

駅に佇む、人々によって紡がれた無数のストーリーを文庫目録にまとめ、駅のホームに設置する。「だれもいない駅」があなたに語りかけるものとは—。昨年の福用編に続くシリーズ2作目。



「こはちんフィオラータ」(2010) photo: Yasuhiro Oga


木村健世

1969年福島生まれ。多摩美術大学建築科卒業。アートユニット「フタボコ」を結成。「まろ」にさまざまなプログラムを挿入し、場を見つめなおすプロジェクトを多数手がける。2008年より個人名義で活動。主なプロジェクトに「ある視点」(2001年 代官山インスタレーショングランプリ作品)、「ある視点: 十日町編」(2003年 越後妻有アートトリエンナーレ)、「国立文庫」(2013年-2015年 東京都国立市広域)

作品設置駅
駿河徳山駅

作品タイトル
無人駅文庫 駿河徳山

駅に佇む、人々によって紡がれた無数のストーリーを文庫目録にまとめ、駅のホームに設置する。「だれもいない駅」があなたに語りかけるものとは—。昨年の福用編に続くシリーズ2作目。



「無人駅文庫」(2018)


しでかすおともだち

ダンサー・振付家の小林由佳を中心に様々なアーティストが集まって結成された。世界初のきぐるみアイドルユニット。メンバーは多分篇のタブネイ、鬼か？ ウーシャカ、きつと羊のキツヒなど。ダンス、映像、おもてなし、愛嬌をウリに、世界に二つと無いきぐるみを身に纏い各地に出発しては愛と恐怖の織り交す魅惑の世界を撒き散らす。きぐるみデザインは美術家・安部泰輔。

作品設置駅
福用駅

作品タイトル
卯釈迦命相館(旅する古い館)
Traveling Fortunes house

勢いの有った70年代の日本の街角や希少になってしまった見世物小屋をモチーフにした古い館。古いを愉しみながら過去の記憶やイメージの中で生まれる新しい出会い・交流を紡ぐ。



「Me and My Monster(私とわたしの怪物)」(2018)


ズガ・コーサクとクリ・エイト

岸川のぞむと岡本和喜の二人によるユニット。各々で活動していたが2009年よりズガ・コーサクとクリ・エイト(略してズクリ)としての活動を始める。主に段ボールなどの廃材を使って、どこかに有りそうな風景を作り出し続けている。二人の制作の方向性は全く違うが、面白い物を作りたいという情熱は同じ方向を向いている。

作品設置駅
代官町駅／川根温泉笹間渡駅

作品タイトル
待合室

待つための空間に、入る前も入った後もわくわくできる作品を作ります。待合室を出たらどこへ向かうのか、私達にもわかりません。



「雫」(2016)


夏池篤+山本直

無人駅の芸術祭2019に向けて新たに結成したグループ。大井川鉄道の歴史を辿り、大井川の荷った交通、運搬における役割の大きさに焦点を当てた作品を制作。夏池篤: 三重県生まれ。愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。山本直: 静岡県金谷生まれ。日大芸術学部彫刻科卒業。

作品設置駅
大井川の河原／川根温泉ホテル裏付近
(抜里駅〜川根温泉笹間渡駅間)

作品タイトル
続・川狩り

鉄道が昭和六年に開通するまで材木運搬は大井川が利用された。鉄道と並行して流れる大井川に焦点を当て、21隻の筏を流し当時の苦勞や共同作業により生まれる連帯感を再体験する。



「森のコースター-2」(2018)


+ tic

鈴木知悠と鈴木陽一郎の2人によって2013年に設立。建築設計を中心に、ものづくり、まちづくりなどプロジェクトベースに活動を行う。現在は浜松市中心市街地にて、5つの場所を実験的に管理運営している。

作品設置駅
複数の無人駅に設置

作品タイトル
無人駅の屋台

大井川鉄道沿線の地域で採集した素材や構法、思想を組み入れたテンポラリーな移動式屋台。会期後は地域の無人販売所に転用予定



「希有LITTLE」(2018)


星 雅治

生き物を作る人。5年程度造形会社にて腕を磨き、2016年から個人の活動をスタート。「どこかにいそいだけど、どこでしか出会えない」ちよっと不思議な生き物たちをつくる。初めて見る生き物と出会う時のワクワク感を、観る人に届けたい。活動履歴「原泉アートデイズ!」(静岡県掛川市、2018)

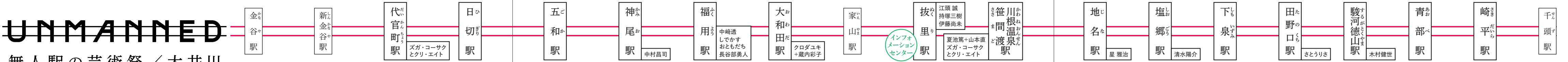
作品設置駅
地名駅

作品タイトル
まじぼうけ

大井川流域には「木の葉天狗」の伝説が。無人駅にひょっこり出てきた木の葉天狗のおじちゃんを孫を表現。見えない存在だけが乗れる電車が今も大井川鉄道を走っているのかもしれない。



「けものみらね」(2018)



UNMANNED
無人駅の芸術祭 / 大井川
Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2019
2019年3月8日(金) — 24日(日) / 17日間



- 「UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川」は、多くの企業様や団体様の協力や支援によって開催しております。 ※順不同・敬称略
- | | | |
|---------------|-----------------------------|----------------|
| 抜里エコポリス | 熊のや | 古民家・野菊の宿 |
| 榎小玉建設 | お茶のあおしま | 樹大村屋酒造場 |
| 柳川根温泉 | ぬくりプラザ | 雨澤合製材所 |
| 金谷コミュニティ委員会 | さよばあちゃんの休憩所 | 田野口駅花と緑の会 |
| 島田土木事務所 | 大泉院 | 井口彩園 |
| 大鉄観光サービス | 地域デザインコーディネーター maiwei 菱谷真美子 | 島田市及び川根本町の小中学校 |
| 金谷タクシー | 晴れたらボタリング | 静岡県立川根高等学校 |
| 寝装寝具みやち | であい農園 | 駿遠学園 |
| 一般社団法人エコティかわね | 福用地区旧大池家 | 仰石音石材店 |
| | | あんまん部サポーターの皆さま |


持塚三樹

1974年静岡県島田市生まれ。常葉学園短期大学菊川校舎美術・デザイン科修了。「Haze」(MISAKO&ROSEN、東京、2019)「生命の樹」(ヴァンジ彫刻庭園美術館、静岡県、2017)「Coexistence」(シェーン・キャンベルギャラリー、シカゴ、2016)「現代地方譚2 AIR 須崎」(高知県須崎市、2014)他個展及び展覧会参加多数。「びじゅつじろん」(静岡県藤枝市、2019~)

作品設置駅
抜里駅徒歩7分のぬくりプラザ
インフォメーションセンター
(島田市川根町抜里320)

作品タイトル
行為と痕

人が生きた痕跡は土地にあり、日々の生活は時代によって異なる文化として一時代を築く。生きるということの、時空を超えた同時代性を表現する。



「OWADA STATION GALLERY」(2018)


清水陽介

島田市生まれ島田在住。22歳から絵を描き始める。2017年・無人駅ルネッサンス、ART あんえっとん、2018年・RYUGALLERY 個展(富士宮)、アートカゲヤマ個展(藤枝)、UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川2018(島田)、clouds art+coffee 個展ナガール(高円寺)、オープンアート(浜松)、焼津アートライン(焼津)他。

作品設置駅
塩郷駅

作品タイトル
塩郷まで来たへビ

昨年福用駅で表現したへビが大井川を北上し塩郷駅までたどり着いた。途中では近くの水神庵に会い、巨大な猪を丸呑みに? 大井川の化身であるへビの旅を表現。



「花 蛇 スケガラ」(2018)

長谷部勇人

1984年愛知県名古屋生まれ。名古屋造形大学大学院造形研究科造形専攻修了。「こたま芸術祭」埼玉(2018)、「中之条ビエンナーレ」群馬(2017)、「アーツ・チャレンジ」愛知芸術文化センター、愛知(2016)「群馬青年ビエンナーレ」群馬県立近代美術館、群馬(2015)、「3331千代田芸術祭」アーツ千代田3331、東京(2014)他多数。

作品設置駅
福用駅徒歩4分の古民家野菊の宿
(島田市福用192-1)

作品タイトル
One Hand Loves The Other

手話の動きを光で記録したこの映像作品は、ホテルが息をするという地域の自然風景を連想させます。



「鹿の聲」(2018)

クロダユキ+蔵内彩子


クロダユキ: 1979年生まれ。静岡県在住。2008年より独学で撮影始める。写真を通し、物や人の気配、自然の畏怖、感情やサインを見つめ続けている。

蔵内彩子: 1985年生まれ。鳥取県在住。数年前離島や海外に移り住み、見えないものをも繋ぐような「編み」の世界に惹かれる。

作品設置駅
大和田駅

作品タイトル
connect

駅に漂う人の記憶や思い、空想に夢。気配なきそれらは、何かと何かを繋ぐかのように、駅を行き交う。



「息と花の森」(2018)


伊藤尚未

メディアアート前史よりメディアアート作品を制作発表。受賞歴多数。2001年より子供のための科学(誠文堂新光社)にて電子工作ページを連載。空間設計、企画デザイン、デジタル系、VR系業務を経て、現在、理科実験教室、工作ワークショップを中心に活動中。

作品設置駅
抜里駅徒歩7分のぬくりプラザ
インフォメーションセンター
(島田市川根町抜里320)

作品タイトル
光とアニメ

人間が見ることのない光は何のために上映されるのか? あえて無人であることを考えさせられる空間を作る。光を使った子供たちの作品も同時展示。




中村昌司

1953年島田市川根町抜里生まれ。東京藝術大学大学院造形専攻卒業。2011年から「あかいささふね」の活動を開始し、2016年福島県いわき市にて「東日本に「あかいささふね」が浮く」コミュニティアートプロジェクトを行った。浜松 OpenArt2019 浜松城公園野外アート展実行委員長。個展、グループ展多数

作品設置駅
神尾駅

作品タイトル
大井川の雫

神尾駅旧駅舎内に大井川の水が滴る水槽、周囲に地域の方々によって頂いた「あかいささふね」を飾ります。




「OPPA」(2018)

前川絃士

1980年大阪生まれ。2007年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。個人的な複数の関心を、個別の機会や状況と照らし合わせながら、各実践を組み立てる。最近の活動に「drawings A. drawings B.」(2018) Gallery PARC. 「enoco [study?] #5」(2017-2018) 大阪府立江之子島文化芸術創造センター-enoco. 「〇と花 かまがき芸術資料展2017」(2017) ひと花センター. 「HAPPY SPOT FUTURE」(2017) 奈良文化会館等。

リサーチプロジェクトのため、インフォメーションセンターにて資料提示。芸術祭ウェブサイトにてpdf資料公開。

works(=)documents
大井川鉄道周辺と無人駅周辺地域の「作品群=資料群」、及び五和村出身の画家 北川民次に関する調査「社会の中の絵(作品)の生まれ、集まる場」と「美術の活動的側面」に関するリサーチとして、大井川周辺の学校等と、北川民次、その他周辺について調べ、資料整理と共有を行う。



「ひと花 かまがき芸術資料展 2017」(2017)